ホッコータルマエよ 歴史刻め

浦河産 現役ダート最強馬

3日JBCクラシック「GI 10冠」挑戦

現役ダート最強馬と呼ばれ、苫小牧観光協会の観光大使も務める日本中央競馬会（JRA）所属のホッコータルマエ（牡6歳）が「GI＝社会面のことば＝10冠」の新記録をかけ、3日に東京・大井競馬場で行われる「JBCクラシック」（ダート2000㍍）に挑む。タルマエはこれまでに中央GIで1勝、地方統一GIで8勝と史上最多タイの計9勝をマーク。地元関係者やファンは「勝って記録を塗り替えて」と期待している。

（苫小牧報道部　細川智子）

ホッコータルマエは日高管内浦河町の市川ファーム生産で、馬主は苫小牧市の建設会社社長矢部道晃さん(47)。日高軽種馬農協の競り市で矢部さんの父、故・幸一さんが見いだした。馬名は、苫小牧の北西にそびえる樽前山にちなんで付けられた。

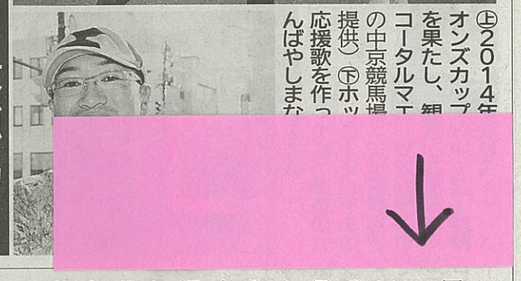
2012年に3歳でデビュー。当初は脚に少し不安があり、負担の少ないダートレースを選んで出走したところ2戦目で勝利。砂への適性を発揮し、重賞レースで勝利を重ねた。昨年12月には愛知・中京競馬場の「チャンピオンズカップ」（ダート1800㍍）で念願の中央GI制覇を果たし、14年度JRA賞最優秀ダートホースに。世界最高賞金レースとして知られるアラブ首長国連邦のドバイワールドカップにも14、15年と連続出走している。

タルマエの強さについて、矢部さんは「オンとオフの切り替えができる。普段はのんびりしていて幼い子に触られても平気でいるが、レースで競馬場に着くなりスイッチが入り、戦闘モードになる」と話す。中央、地方統一を合わせたGI勝利数は現在、タルマエを含むダート馬3頭の9勝が最多。残る2頭は引退しており、タルマエに記録更新の期待が集まる。

日高軽種馬農協の川越敏示（さとし）参事は「地方レースが中心とはいえ、重賞はフロック（まぐれ）では勝てない。走るたびに強くなる印象さえ受ける」と絶賛。「地元出身のタルマエが活躍してくれて本当にうれしいし、生産者の励みになる」と10冠戴冠を待ち望む。

今年2月、タルマエに「とまこまい観光大使」就任を依頼した苫小牧観光協会の斎野伊知郎専務理事も「ぜひ勝って、樽前の名を全国に発信してほしい」とエールを送る。

「賞金を積み上げて最高グレードのレースに出続け、さらに勝ち続けるのは本当にすごいこと」。20年来の競馬ファンという苫小牧市のシンガー・ソングライターかんばやしまなぶさん(39)は、もっとタルマエの存在を知ってほしいとの思いから応援歌を作り、イベントなどで披露している。3日のレースにも駆けつける予定で「勝ったら歴史的快挙をたたえる歌を作りたい」と張り切っている。



㊤2014年オンズカップを果たし、ホッコータルマエの中京競馬場提供）㊦ホッ応援歌を作っんばやしまな

■格闘家が警察官に頭突き容疑

警察官に頭突きをしたとして、警視庁目黒署が公務執行妨害容疑で、格闘家山本喧一容疑者(39)を現行犯逮捕していたことが31日、捜査関係者への取材で分かった。

逮捕容疑は30日未明、目黒区のマンションで、警察官2人の顔面に頭突きをした疑い。目黒署などによると、山本容疑者は知人宅で泥酔して暴れていたといい、通報を受けて駆け付けた署員に暴行した。山本容疑者は「酔っぱらっていて覚えていない」と供述している。

■「ボジョレ」初荷 羽田に到着

19日に解禁されるフランス産の新酒ワイン「ボジョレ・ヌーボー」＝写真＝の初荷3.5㌧を搭載した全日空機が31日、羽田空港に到着した。ボジョレ地区の生産者団体によると、今年は高温と強い日差しに加え、8月の断続的な降雨でブドウの熟成が進み、滑らかな口触りのワインになった。

初荷の荷主はサントリーワインインターナショナル（東京）で、750㍉㍑と375㍉㍑のボトル計約3200本分。午前6時40分ごろ羽田に到着したワインは貨物ターミナルに運ばれ、税関職員がボトルのラベルと申告書類を照らし合わせた。

同社は解禁日までに、750㍉㍑ボトル換算で約93万6千本分を全国各地に空輸する。主力商品の750㍉㍑入りの予想価格は昨年とほぼ同じで、1本2460円程度（税別）。業界全体の輸入量は、円安による値上げの影響などで前年を下回る見込みという。

会員・会友 入魂の245点

札幌・近代美術館 全道展70周年 企画展始まる

会員・会友の個性豊かな作品が並んだ全道展70周年記念企画展

創立70周年を迎えた美術の公募展、全道展（全道美術協会）の記念企画展（同協会、北海道新聞社主催）が31日、札幌市中央区の道立近代美術館で始まった。

全道展は、終戦直後の1945年12月、道内に疎開していた画家ら21人で結成。46年に第1回展を丸井今井札幌本店で開催した。記念展には絵画、版画、彫刻、工芸の各分野の会員・会友計245人が1人1点ずつ出品。作家の個性あふれる力作が並び、来場者が熱心に見入っていた。

また、初日は本紙朝刊文化面「ウエーブ　美術」の執筆者で美術評論家の村田真さんによる講演や、会員による演劇も行われた。

8日まで。会期中無休。一般800円、大学生以下無料。

同美術館では、全道展に続いて90周年の道展（北海道美術協会）、60周年の新道展（新北海道美術協会）の記念展も開かれる。日程と入場料は次の通り。

▽道展　14日～23日（16日休館）。一般800円、大学生以下無料▽新道展　28日～12月6日（30日休館）。一般600円、大学生以下無料

境界地域つなぐ活動 社会連携賞

根室市長代表 JIBSNに

【根室】外国と近接する境界地域の自治体や大学などでつくる「境界地域研究ネットワークJAPAN」（JIBSN、代表・長谷川俊輔根室市長）が、地域横断の取り組みを支援する「地域研究コンソーシアム」（JCAS）の本年度の社会連携賞を受賞する。根室から稚内までオホーツクを縦断するバスツアー「道東ボーダーツーリズム」に協力するなど、地域の課題解決に向けた活動が評価された。

JIBSNはNPO法人「国境地域研究センター」（名古屋市）などと連携し、道東ボーダーツーリズム（10月2～5日）や、稚内とサハリンを巡る観光モニターツアー（6月）の企画や実施に協力。専門家によるフォーラムも全国で開催しており、境界地域の研究や活性化など、官・学・民連携の取り組みが評価された。

授賞式は1日に東京外大で行われる。長谷川代表は「今後も境界地域それぞれの課題の解決に向けて、積極的な活動を展開していきたい」とコメントしている。

JCASは百近い国内の研究機関や学会などで組織されている。表彰は「研究作品賞」「研究企画賞」など4部門。

道東ボーダーツーリズムで根室市の北方館を訪れた参加者ら＝10月2日

高校生読書体験記 大島さん最優秀賞

2015年度北海道高校生読書体験記コンクール（一ツ橋文芸教育振興会主催、道高文連図書専門部主管）の審査結果が31日に発表され、最優秀賞に札幌南高2年の大島菜瑚（なこ）さんの「本との『奇しき縁』」が選ばれた。

18校から1543編の応募があった。大島さんの作品は北村薫著の「六の宮の姫君」を題材に、著者に対する知識の深まりや自身の成長によって、同じ本でも読後の印象が変わっていくことを説明した。優秀賞受賞者は次の通り。（敬称略）

松尾涼太（旭東2年）江畑咲良（札月寒1年）山形沙羅（札月寒1年）坂本愛香（樽桜陽2年）

国際映画祭開幕 アニメ200本上映

3日まで

【千歳】芸術色豊かな自主制作の短編から、テレビや映画の人気作まで国内外のアニメ計200本あまりを上映する「新千歳空港国際アニメーション映画祭2015」（実行委主催）が31日、同空港ターミナルビルで開幕した。同ビルのじゃがポックル会場に3日まで。

2度目の今規模を拡大。本の中から18選出した短編ションをはじめ映や、子供も験ワークショどのゲストをショーなどが開会式では ィションのゲルメル国際

開会式であい川タク・名

きのうの天気　きょうの波と風

	31日 最高	31日 最低	1日 風向	1日 波	
札幌	8.1(▼4.7)	5.7(△1.1)	北西	一	雨
新千歳空港	7.3(▼5.8)	3.2(△1.5)	西		雪
小樽	6.8(▼5.5)	4.7(△0.0)	西	2.5	雪

朝の食卓

11月にな物語がある旭川市9前川正は堀田（後のキリスト教で、北大医休学中だっぶりに訪川を、脊椎の綾子はギドで迎えその日かか箱を綾子に箱には、彼費を出すたりたいと、肋骨（ろっこつ）8本肺の空洞を手術をした入っていた人は窓を開た初雪を見度だけ握手